『東北数学雑誌=The Tôhoku mathematical journal』

vol.1 (1911/1912)~vol.49 (1943)，**林鶴一編集**

『東北数学雑誌. Second series』

vol. 1, no. 1 (Mar. 1949)~**刊行継続中**，**東北大学**

日本で最初の数学専門誌であり、国際的な名声を持つ雑誌です。この雑誌の特徴は、とにかく優れた論文の募集を志向し、所属機関や国籍によって投稿制限をしなかった点にあります。なぜそれが可能だったかというと、この雑誌が大学によってではなく、数学教室・林鶴一教授の私財によって創刊されたためでした。後に発行の主体が大学に移りましたが、論文募集の方針はそのまま引き継がれ、東北数学雑誌は日本の数学の発展に大きな影響を与えました。また、数学教室で盛んだった和算史研究についての報告が毎巻掲載されていたことも特徴です。

第二次世界大戦の際には、数学者の相当数が軍事研究のために従来の研究から遠ざかり、海外からの寄稿も途絶えました。用紙不足と人手不足も重なったため、東北数学雑誌の発行は第 49 巻（1943）をもって終了します。戦後、1949 年に「東北数学雑誌. Second series」として再出発し、現在に至ります。

林鶴一教授（東北大学史料館写真 DB より）

【林鶴一】はやし・つるいち (1873-1935)

徳島市に生まれる。徳島中学、京都の第三高等中学を経て、1897 年（明治 30）東京帝国大学理科大学数学科を卒業した。京都帝国大学理工科大学助教授、松山中学教諭、東京高等師範学校講師を経て、1911 年 4 月東北帝国大学数学科教授となり、創立当時の東北大学の基礎を固めるのに功績があった。日本最初の数学専門の学術誌（『東北数学雑誌』）の発行により数学界に大きな刺激を与えたことや、関孝和の「解伏題之法（かいふくだいのほう）」が行列式の理論を含んでいることの発見など和算の研究で知られている。また、公算論、級数概論、射影幾何学などの高等数学の啓蒙書を大倉書店より数学叢書として発行したこと、明治末期より昭和 10 年ごろにかけて全国を風靡した中等教育用の代数学教科書、幾何学教科書などの著者、初代の日本中等教育数学会会長（1919-1927）として数学教育、啓蒙に貢献した。[日本大百科全書より抜粋]

【Tohoku paper】

東北数学雑誌には、著者の「Tohoku paper」というだけで通用する、大変有名な論文が掲載されています。下の２論文がそれに該当します。

■Claude Chevalley. *Sur certains groupes simples.* The Tohoku Mathematical Journal. Second Series. vol.7(1-2), 1955, pp.14-66【展示中】

■Alexander Grothendieck. *Sur quelques points d'algebre homologique.* The Tohoku Mathematical Journal. Second Series. vol.9(2), 1957, pp.119-183